美浜町エネルギー環境教育体験館「きいぱす」と「観光」をつなぐゲートウェイ施設の検討ワークショップに関する報告 －地元と協調した施設と地域の活性化の検討－

Report on the workshop for considering a gateway facility linking Mihama Town's hands-on energy and environment education facility “Kiipasu” with tourism - Discussions on how to vitalize the facility and the region in cooperation with local communities -

西野　加奈江（Kanae Nishino）*1　　近田　昇（Noboru Konda）*2
大磯　眞一（Shinichi Oiso）*1　　高木　利恵子（Rieko Takaki）*1

要約　美浜町エネルギー環境教育体験館「きいぱす」（以下,「きいぱす」という.）は，開館３年が経過し，来館者も徐々に増えてきているが，個人客の取り込みが十分とは言えない現状にある．理由として，施設に対するイメージが固く気軽に行けない，所在地が「遠い」，また「『きいぱす』の他に何もない」と思われていることがある．今回,「きいぱす」の施設の一部である「体育館」に改修の必要が生じたことから，新たな展示などが可能で，また，団体客用のスペースを併せ持つ施設に改修し,「きいぱす」の魅力を向上させ，来館者の増加につなげたいと美浜町から要望があった．一方で,「きいぱす」だけの魅力が向上しても,「丹生」地区全体が変わらなければ来館者の増加にはつながらないと考えられる．そこで，有識者を座長とし地区などの代表，専門家を委員とするワークショップを組織し,「きいぱす」の体育館の改修と,「きいぱす」を含む「丹生」地区の今後を検討することにした．計６回のワークショップを経て,「きいぱす」と「丹生」地区の新たな魅力を表す「テーマ」と「コンセプト」が策定された.

キーワード　美浜町エネルギー環境教育体験館きいぱす，地域活性化，地域創生

Abstract　Three years since its opening, Mihama Town's hands-on energy and environment education facility “Kiipasu” is steadily attracting more visitors but still needs to work on attracting individual visitors. Reasons for this situation include: people believe the facility is too serious for a casual visit, is too remotely located, or does not have any other attractions nearby. Taking the need to repair “Kiipasu” gymnasium as an opportunity, Mihama Town requested that the gymnasium be remodeled to enable new exhibits to be displayed and to include a space for group visitors, to boost the appeal of “Kiipasu” and the number of visitors. However, enhancing the appeal of “Kiipasu” alone will not boost the number of visitors; the entire local district of “Niu” needs to change. Accordingly, a workshop led by a specialist and consisting of representatives of local communities and experts was launched to plan the remodeling of the gymnasium and the future of the “Niu” district including “Kiipasu”. Through six workshops, the themes and concept for conveying the new appeals of “Kiipasu” and “Niu” were established.

Keywords　Mihama Town's hands-on energy and environment education facility “Kiipasu”, Regional activation

1.　はじめに

福井県美浜町丹生に立地する「きいぱす」は，エネルギー環境教育に特化し,「エネルギー問題」や「環境問題」に関する体験や学習のできる施設として, 2017年４月に開館した．開館３年が経過し, 徐々

＊1　(株)原子力安全システム研究所　社会システム研究所
＊2　元(株)原子力安全システム研究所　社会システム研究所　現(株)かんでんエンジニアリング

に来館者数も増えてきているが，その内訳をみると，年２回開催される「きいぱすフェスタ」などによるものが多く，それ以外での個人客の取り込みが十分にできていないのが現状である．

「きいぱす」の展示や体験プログラムは，来館者から高い評価を受けている一方，一般住民からは「エネルギー」や「環境」といったテーマは「難しい」「楽しめない」というイメージを持たれていると思われ，気軽に訪れる方は少ないようである．

また，「きいぱす」の所在地が敦賀半島の先端に近く，「わざわざあそこまで行くのは遠い」「他に何もないのにそれだけのために行くのは...」という声も聞かれることから，現状のままでは個人客を中心とした来館者の増加は期待できないと考えられる．

今回，「きいぱす」の施設の一部である体育館に改修の必要が生じたことから，エネルギーに関する新たな展示などができ，また，団体客を受け入れる際，休憩などができるスペースを併せ持つ施設に改修ができないか．そして，それらによって「きいぱす」の魅力を向上させ，来館者の増加につなげたい，という要望が美浜町から出された．

一方で，「きいぱす」の魅力が向上したとしても，「丹生」地区自体も変わらなければ，「遠い」「何もない」といったイメージは変わらないため人が訪れることはない．つまり「きいぱす」の来館者増にはつながらない，という懸念もある．

そのような状況で，「きいぱす」から原子力安全システム研究所（以下，「INSS」）に相談と協力要請があり，INSSは地元の企業として地域に貢献できることは積極的に関与するべきと判断し，協力していくこととした．検討の主体は「きいぱす」で，サポートしていくのがINSSであるという体制を確認した．

2. 目的

「きいぱす」の体育館改修などについて検討すること，また，あわせて「きいぱす」を含む「丹生」地区全体をどのようにしていくのか，将来を見据えた検討を行うこととした．

具体的には，「きいぱす」の施設としての在り方を検討する中で，エネルギー・環境問題などを学ぶ場所として，丹生地区以外からの訪問者だけでなく，丹生地区の住民も自ら足を運ぶこと，さらには，丹生の地域全体としての観光を視野に入れ訪問者を増やすことに主眼を置いた．

丹生地区を魅力ある地域に変える，いわゆる「地域創生」の取組みにより地域への訪問者を増やすことで，新しい魅力を持った「きいぱす」への来館者の増加につながることを期するものである．

3. 方法および結果

3.1 方法

今回の検討方法は，INSSから提案をし，有識者，専門家および地元関係者などをメンバーとするワークショップ（以下，WSという.）方式とした．

WS方式を採用した理由として，第一に「丹生」地区の将来，「きいぱす」の今後については，地元関係者を含む多様な立場の当事者からいろいろな意見が出され，イメージを共有しながら議論されることが望ましいと考えたからである．

第二に，福井県にある企業の研究施設のリニューアルに際し，有識者，建築家，社員などをメンバーとしてWSを立ち上げ，そこで出された様々な意見をまとめ，新しい施設の「テーマ」と「コンセプト」を決定した好事例があり，そのプロセスや方法が参考になると考えたからである．決定された「テーマ」と「コンセプト」に基づきリニューアルされた研究施設[*3]は，従来の閉鎖的・秘密保持的な施設から，開放的・情報収集的な施設に変わり，その在り方や建物自体の面白さが，様々な方面から高く評価されている．

3.1.1 検討体制

WSの名称は，「美浜町エネルギー環境教育体験館『きいぱす』と『観光』をつなぐゲートウェイ施設検討WS」（以下，「検討WS」という.）とした．

検討WSの座長として，地域創生の取組みに経験・知見のある大阪大学COデザインセンターに依頼し，同センターの上須道徳先生にご協力いただくことになった．

また，検討WSの委員は，丹生区，漁業組合の代

＊3　NICCAイノベーションセンター

表や商工，観光，旅行の専門家，美浜町の観光・産業の関係課に加えて，事務局として「きいぱす」の管轄課および「きいぱす」関係者で構成した．

3.1.2 策定する成果物

検討WSでの議論を通じて，「丹生」地区の地域創生と，「きいぱす」を地域の中核的施設として，新しい魅力を表す「テーマ」と「コンセプト」を策定することとした．

なお，「テーマ」とは，「きいぱす」を含めた「丹生」地区の目指す将来を表すもので，「コンセプト」とは，「テーマ」を具体化するための方策である．

3.2 検討WSの活動

検討WSは，2019年９月から2020年３月までに６回開催された．各回の活動内容は次のとおり．

第１回　「きいぱす」にかかわる認識の共有
第２回　視察を通じた認識の客観化
第３回　認識に基づく「きいぱす」のイメージ出し
第４回　イメージを他者に伝えるためのストーリー作成
第５回　施設改修を含めた具体策を想定したコンセプトの提案
第６回　テーマとコンセプトの架橋

検討WSの委員には，最終的なアウトプットに向け，各回のWSの意義を理解していただいた上で議論を進めた．上須先生には各回で発散される意見や認識を，活動内容に合わせた形で取りまとめていただいた．

各回のWSの概要を，以下の表１「検討WSの概要」に示す．また，表１内で言及している各回の成果物については，本文末の資料１～４で示す．

3.3 検討WSの成果

計６回のWSの中で，地元住民を含む委員の思いや問題意識が，はじめは発散したが，最後は「テーマ」と「コンセプト」という形に収束させることができた．６回の議論を踏まえ，整理した「きいぱす」および「丹生」地区の「テーマ」と「コンセプト」を，図１に示す．

WSでは多くのコンセプトが提案された．その中で共通して見られたものが，学ぶ，体験する，エネルギー，丹生，未来，つなげる，交流する，という言葉であった．これらの言葉の中には，「きいぱす」と「丹生」地区を美浜町の観光のゲートウェイとし

表１　検討WSの概要*4

開催日時	テーマ	概　要
WS1 2019年９月６日	認識の共有	委員の自己紹介，ワークショップの目的や進め方の確認を行い，「きいぱす」や美浜・丹生地区がもつ魅力・特徴，抱える課題について様々な意見を共有した．（資料１参照）
WS2 2019年11月１日	豊岡視察	豊岡市コウノトリ文化館及び豊岡市コウノトリ共生課を視察した．現在の取組みやその実施体制，活動の歴史についてヒアリングを行い，地域づくりにおけるコウノトリの意義，また行政，地域住民や活動団体が果たした役割について知見を得た．
WS3 2019年12月６日	イメージ出し	認識の共有（WS1）と豊岡視察（WS2）を踏まえ，「きいぱす」の在り方に関するイメージの洗い出しを行った．地域活性を大きな目標として，地域資源の活用や「きいぱす」の特色を踏まえた手段や中間的な目標を挙げることができた．（資料２参照）
WS4 2020年１月21日	ストーリー作成	「きいぱす」の在り方のイメージを第三者に伝えるためのストーリーを作成した．「日本の将来のエネルギーを学ぶ場所」，「豊かな自然の中に身を置き五感で感じる体験」，「家族がエネルギーを学び，自然を楽しむ場所」という３つのストーリーラインが提案された．（資料３参照）
WS5 2020年２月19日	コンセプト策定	WS委員のアイデアに共通してみられるストーリーやイメージの構成要素からコンセプトを抽出，具体案も併せて提案した．「最先端のエネルギーの学び」，「100年後の地球を創造する」といったコンセプトの要素リストを作成し，関連する施策・取組みのアイデアを提案した．（資料４参照）
WS6 2020年３月13日	テーマとコンセプトの架橋	これまでのワークショップの議論をまとめる形で，様々な意見や思い全体を包含するようなテーマの設定，そのテーマを具体策に架橋するためのコンセプトの選定を行った．また，今後の展開についても議論した．

＊4　上須先生作成

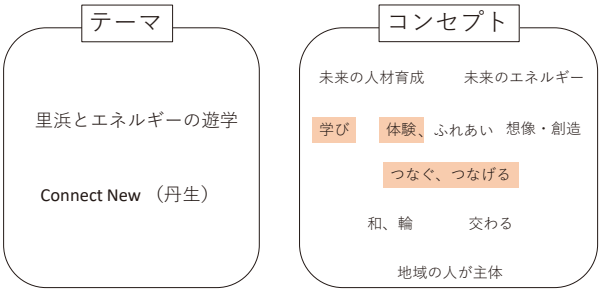


図1 「きいぱす」および「丹生」地区の「テーマ」と「コンセプト」＊5

て捉えること，原子力発電所の立地地域としての歴史や，「きいぱす」が提供する先端のエネルギーについての学びを通じて，未来につながる「何か」を想像・創造するといった思いが表れている．

このような様々な思いを包含するよう，「里浜とエネルギーの遊学」と「Connect New（丹生）」という２つの言葉にまとめて，これを「テーマ」として策定した．

「テーマ」とした「里浜とエネルギーの遊学」，それをどのように具体化するのか．検討WSでの議論の中では，様々な具体的な取組みが提案された．それらを実現できるよう，３つのコンセプトとして表現，整理した（図２）．

さらに，検討WSで提案されたコンセプトから想定できる様々な具体的な取組みのアイディアの一部を，図３に示す．

今回策定した「テーマ」・「コンセプト」は，「きいぱす」や「丹生」地区の資源を利用した具体的で「わくわくするような」施策やアイディアとつながっている．他にも，例えば，全国で同じ「丹生」という名前を持つ「丹生地区」が一堂に集まるサミットを「きいぱす」で開催し，おいしいもの（例：「丹生丼」を創作）や，自慢したいもの（例：未来のエネルギーモデル地区）を披露する，といったアイディアは，「テーマ」・「コンセプト」を体現するユニークなアイディアであった．

＜テーマ＞・・・きいぱすと丹生地区の目指す将来を端的に表すもの

里浜とエネルギーの遊学
－Connect New（丹生）－

＜コンセプト＞・・・「テーマ」を具体化するための方策

01体験する
「自然を」「食を」「生活を」

02学ぶ
「エネルギー事情・環境問題を」
「新しい技術を」「エネルギークイズで」
（創造・想像、人材育成などを含む）

03つながる
「他地域と」「他世代と」「他の考え方と」
（交わる、和、輪、ふれあいなどを含む）

図2 策定した「テーマ」と「コンセプト」

【01 体験する】

01 自然を

丹生湾は美しい。美浜発電所が稼働していた時には、取水によりおよそ1日で湾内の水が入れかわっていたらしい。「丹生」の船着き場には、かわいいスワンボート（池や湖にある足漕ぎのボート）がある。湾内の波は静かであり、このボートでも漕ぎ出して行ける。このボートの魅力は船底の一部が透明になっており、きれいな湾内の底まで見ることができるところである。

一方、「きいぱす」の横にはちょっとした山がある。この山には、遊歩道が作られている。丹生湾と美浜発電所を見ながら、山上の展望台まで少し歩くことができる。「きいぱす」としては、位置エネルギーや運動エネルギーについて学んでほしいと考えて作ったインクラインを利用してほしいと考えているかもしれない。また別の方法として、サイクルモノレールで登って行く手段もある。これは「きいぱす」３Ｆから出発するので、実は標高差が少なく、考えているよりも楽であることはあまり知られていないようだ。

03 生活を

「丹生」はいわゆる田舎である。都市にあるようなものは、ほぼない。ならばいっそのこと、本当に何にもない生活を体験できるようにしてはどうか。とはいえ、野宿は安全面から問題がありそうである。寝る場所は、隣接するオートキャンプ場があるので、そこを活用してはどうか。食事は自炊する。まずは火起こし体験から始める。マッチやライターは使用しない。調理は、近くの調理場で行う。切る、煮る、焼く、炊く、盛り付ける、食べるまでにやることは沢山ある。さらに食器はどうするのかも考える必要がある。昔の生活を体験するのに他に何ができるだろうか・・・。

早起きをして、漁船に乗せてもらって漁を体験する。網を引き上げれば、地魚が大漁である。戻って魚を自分でさばくのも良い経験になる。

田畑で農作業をすることもできる。最初のうちは、農具はうまく使えないが、そこは慣れである。例えば、バーチャル住民登録をすれば、バーチャル「自分の農地」を地元のオーナーさんから借りて作物を作ることができることにすればどうだろうか。普段は、本当のオーナーさんにお世話をお願いすることになるかもしれないが。

湾内の養殖いけすの魚もマイ魚登録ができる。成長したら丹生に来て自分でさばくこともできるし、自宅に送ってもらうこともできる。

図3 コンセプトから想定できる具体的な取組みのアイディア（一部）

4. 活動の評価

今回，WS方式を採用し，地区の代表や多様な業種の代表を検討WSの委員としたことで，地域住民が主体となりうるような施設の在り方について，様々な立場から議論を深めることが可能となった．

また，普段では聞けないような，地区が抱える思いなど，当事者の心情を吐露していただけたことも大きな成果であったと考える．

そして，検討WSに様々な分野の専門家が参加することにより，議論の中で出るアイディアや提案について客観的な視点からの議論を担保することができたと評価できる．

さらに，座長を上須先生という有識者に務めていただいたことにより，ワークショップや地域創生について多くの経験や知見を有するファシリテーターのもとで検討の議論を進めることが可能となった．限られた時間の中でたいへん有効な議論を行うことができたと考える．

＊5 本図も上須先生にまとめていただいたものである

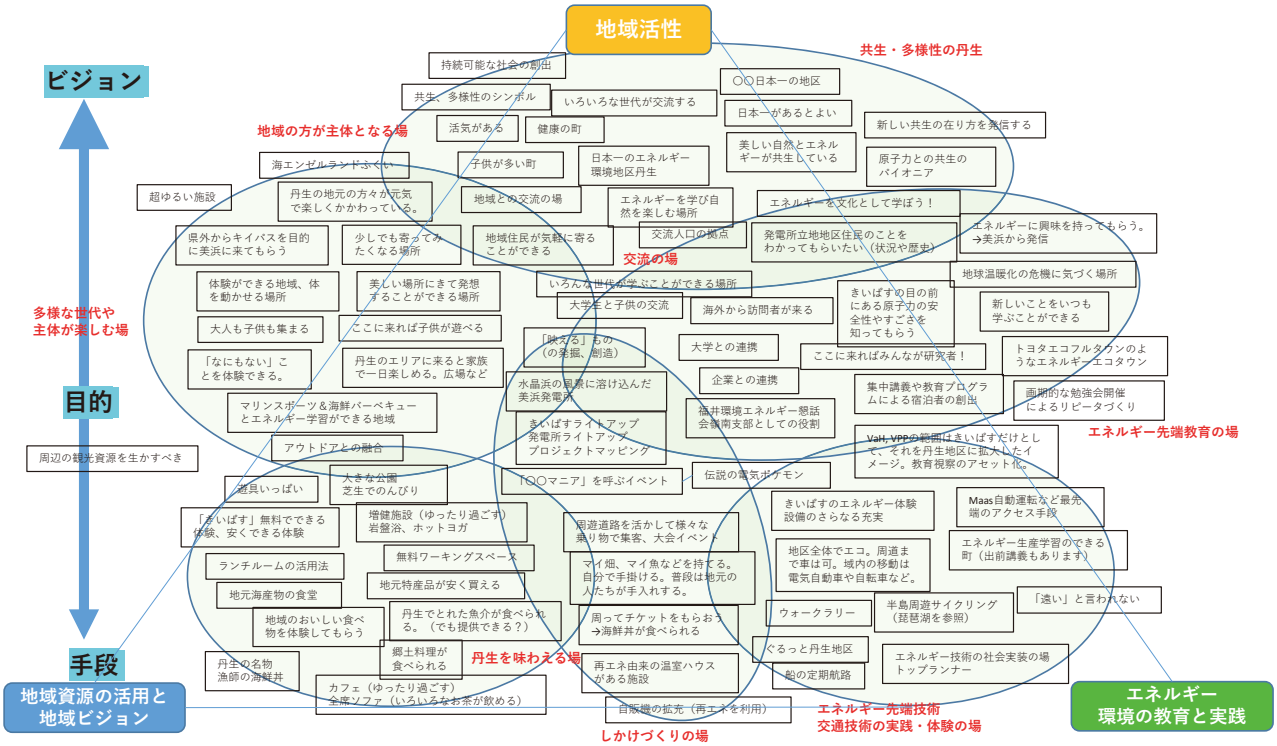
5.　今後への期待

「きいぱす」や「丹生」地区の将来の発展については，美浜町や地元関係者の力と協力が不可欠である．今回の検討WSの成果は,「きいぱす」や「丹生」地区の今後について, 当事者も加わり策定した基準, あるいはスタート地点になる．今回の成果が今後の具体化の取組みにつながることを望みたい．

謝辞

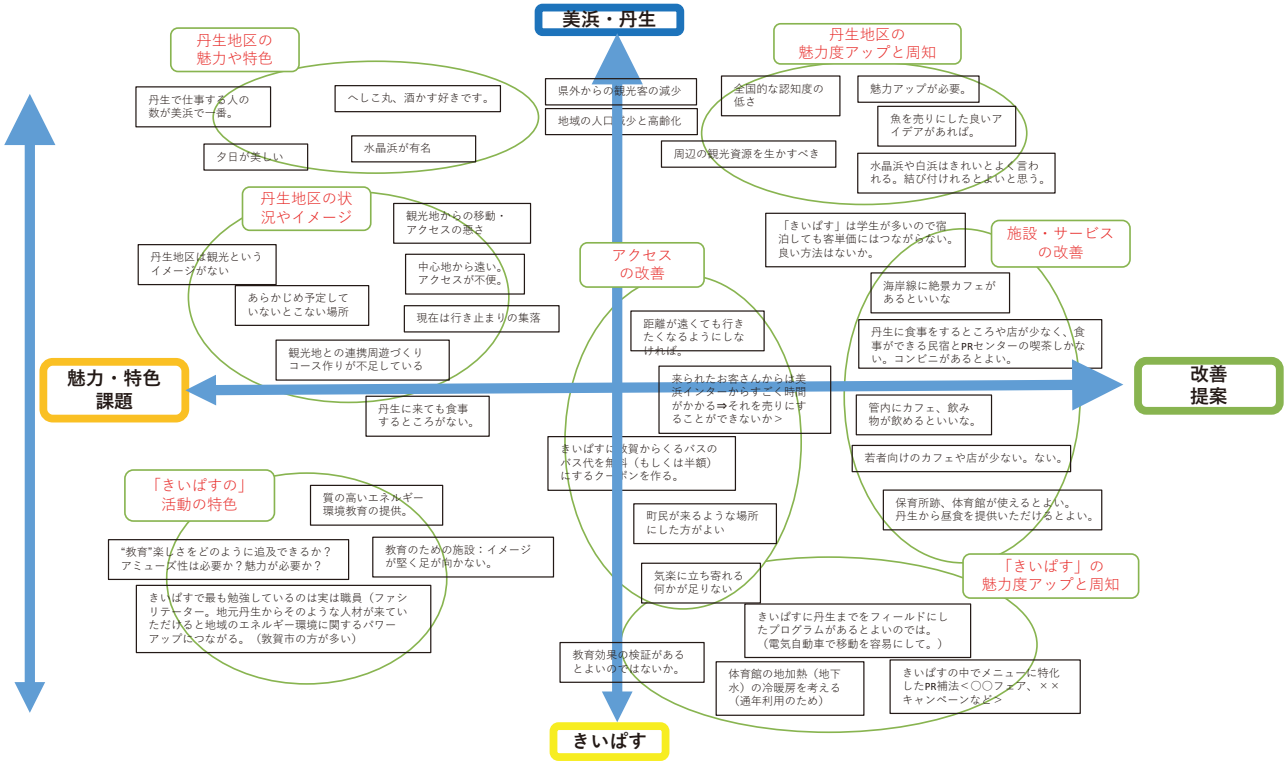
本事業の当初の構想にお力添えをいただきました大阪大学COデザインセンター長 池田光穂 教授，検討WSを導き，ご尽力をいただきました大阪大学COデザインセンター 上須道徳 特任准教授，６回のWSにご協力をいただきました委員，関係者のみなさまに深く感謝申し上げます．

また，本誌への事業報告の掲載をご快諾いただきました美浜町エネルギー環境教育体験館「きいぱす」橋場 隆 館長をはじめ職員のみなさまに感謝いたします．

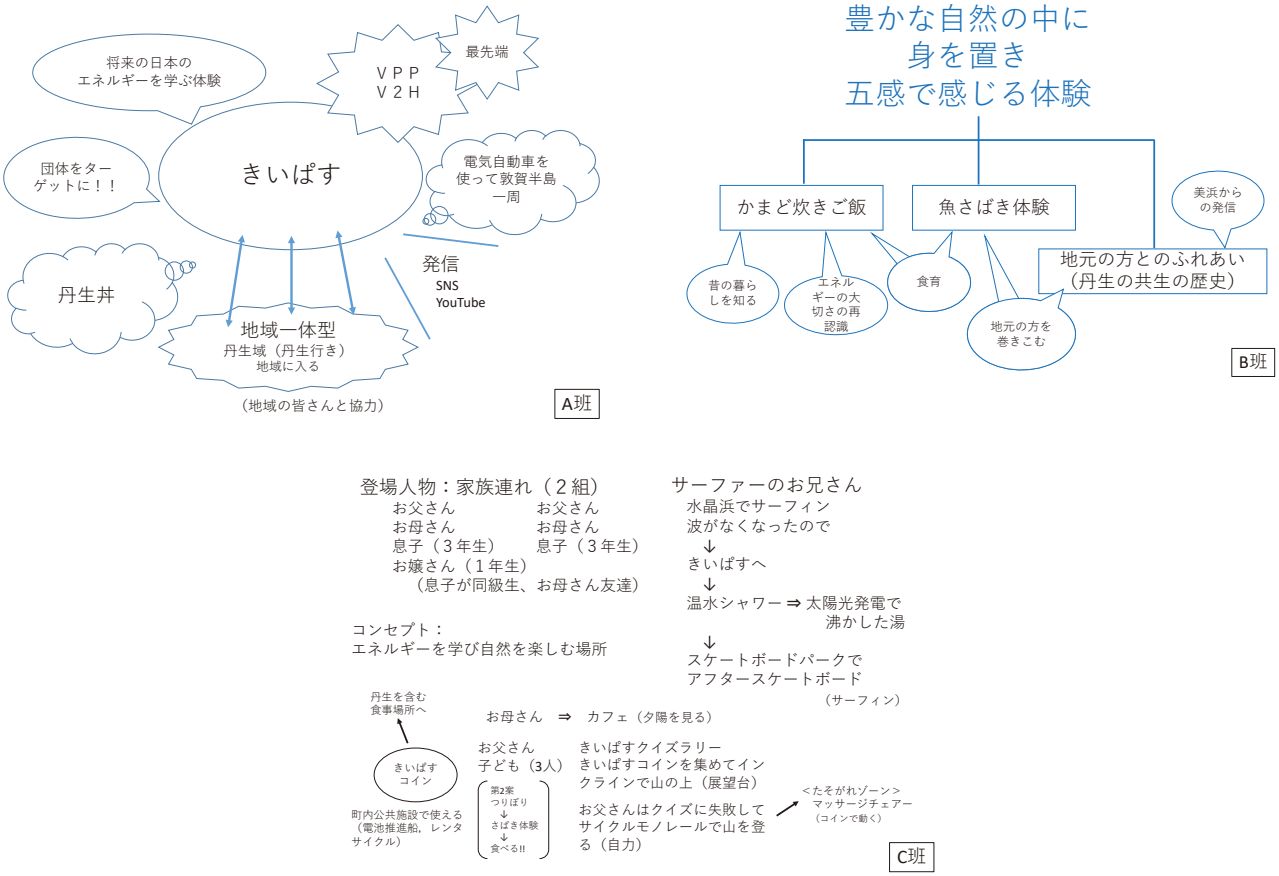


資料1　WS1「きいぱす」にかかわる認識の共有*6

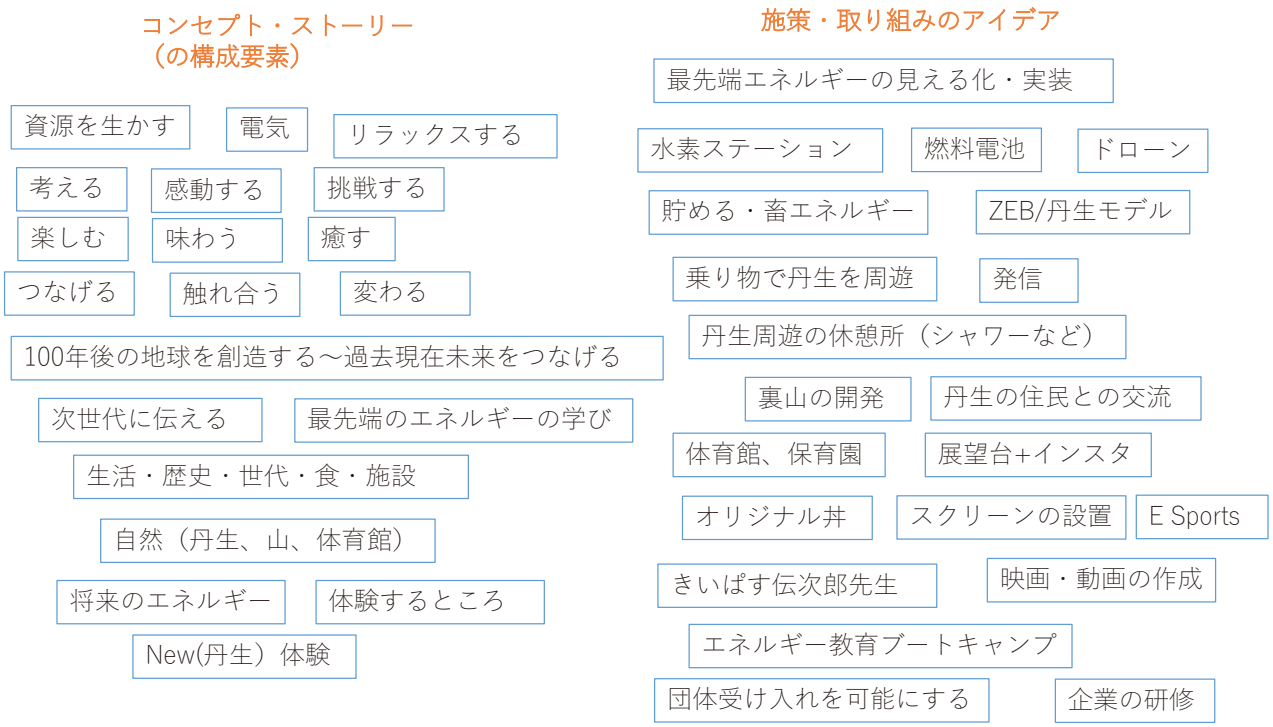
*6　資料１，２，４は上須先生のまとめによる



資料2　WS3 認識の共有と視察を踏まえた「きいぱす」の在り方に関するイメージの洗い出し*6



資料3　WS4 きいぱすの在り方のイメージを他者に伝えるためのストーリー作成



資料4　WS5 委員のアイディアに共通してみられるストーリーやイメージの構成要素から抽出したコンセプト*6